

3 歴史的資産である町家の再生を通じた地域の賑わい創出 地域文化を発信し、新たな交流を生み出す

富山県・高岡市 | 北陸銀行

空き家となった歴史的資産を複合商業施設としてリノベーションし、地域文化の発信拠点に整備する。生まれ変わった町家は地域コミュニティと来訪者を繋ぐ交流の場でもある。

1つの町家の再生を契機に、地域全体の活性化を志向する。



山町ヴァレー

高岡市の概要

【人口】172,970人(2018年2月28日現在)

- ・高岡市は、本州のほぼ中央で日本海に面する富山県の北西部に位置。面積は209.57平方キロメートル(東西約24.5キロメートル、南北約19.2キロメートル)。
- ・交通の軸は、南北に走る東海北陸自動車道と能越自動車道、東西に走る北陸新幹線(2015年3月開業)。
- ・高岡は、1609年(慶長14年)、加賀藩二代藩主・前田利長によって高岡城の城下町として開かれた。「高岡」の地名は、利長が「詩経」の一節「鳳凰鳴り彼の高き岡に」から引用し、この地の繁栄を願って名付けたと伝えられている。
- ・高岡を代表する伝統産業に高岡銅器や高岡漆器がある。藩政期以来の長い歴史の中で受け継がれてきた「ものづくりのわざと心」が今もなお脈々と息づいており、アルミ、化学・薬品、紙・パルプなどの近代工業が根付いている。

空き家となった歴史的資産が複合商業施設に生まれ変わる

「山町筋」は、城下町高岡で北陸街道が通る商業の中心地として栄えた地域の通称。毎年5月に行われる「御車山祭(みくるまやまつり)」で、山町の各町が誇る御車山を街中で引き歩く姿はまさに圧巻。高岡市の中心市街地には歴史的な建造物が多く、土蔵造りの建物が立ち並ぶ山町筋は重要伝統的建造物群保存地区にも選定されている。

風情ある山町筋で空き家となっていた町家が、官民の連携で改修され、複合商業施設「山町ヴァレー」として生まれ変わった。

山町ヴァレーの生みの親である末広開発株式会社 菅野克志社長に、空き家の改修の経緯を伺った。

「実は向かいに住んでいるんです。空き家は老朽化のスピードが速く、屋根が崩れたりするなど危ないこともあるが、何より空き家が増えていくのは地域にとって良くない。地域みんなで何とかしたいと話合っていた」と語る。

もともとこの町家は、明治期創業の文具屋。昭和4年に建てられた西洋建築と明治36年建築の土蔵造りの建物が通りに面する。その裏側には、5つの土蔵が横に並ぶ。菅野氏は、この建物を外観の趣を残したまま活用すれば面白いのではないかと、事業構想を練った。現在、土蔵等を改装したスペースには、地元の人々を楽しめる飲食店や伝統技術の铸物を販売する店など8店舗が入居し、施設の入り口には、来訪者の交流スペースを設けている。

修理前



修理後



町衆文化を発信する多彩なイベント

山町ヴァレーのコンセプトは高岡の町衆文化の発信。この地域は、400年続く御車山祭があり、他の地域より住民の繋がりが強いが、空き家が多くなればコミュニティの衰退に繋がる。「この施設を老若男女が集う場所として整備し、情報発信の拠点とすることで、地域内はもとより、観光客など地域外の人との交流をさらに活性化しようという思いがある」(菅野氏)



ここでは、様々なイベントが開催される。街並み散策を楽しめるよう通りの家々を開放する「土蔵造りフェスタ」、各家が持っている天神様を公開する「天神様祭」、多くのおひな様を展示した「ひな祭り」など。こうした賑わい創出事業は、地元住民が組織した「土蔵造りのある山町筋まちづくり協議会」が企画運営し、末広開発や地域の若手が組織した「町衆高岡」が協力している。



「ひな祭り」開催中の山町ヴァレー

地方銀行の支援が多面的な相乗効果をもたらす

この事業には、北陸銀行の執行役員高岡地区事業部本部長で末広開発の監査役である梶谷英治氏に、計画づくりの段階から関与してもらったという。この地域の特徴を活かすにはどんな仕掛けが必要か、建物改修はどうするかなど、ソフト・ハード両面においてアドバイスを受けたという。リノベーション資金についても北陸銀行等から融資支援を受ける。

「最近、地元の伝統産業に関する映画を作ったのですが、映画の企画実行委員会に北陸銀行も参加していただき、支店でロケも撮らせていただいた。その映画を山町ヴァレーで放映することも検討中です。まちづくりは、1つの取組みだけでなく、様々な取組みをリンクさせて、相乗効果を生み出すことが大切。北陸銀行には多面的な取組みについて、都度、協力していただいています」(菅野氏)



山町ヴァレーの中庭の様子

高岡市と連携して新たな事業拠点を発掘

高岡市は、この事業を補助金交付などで支援する。同市の産業振興部 山村淳子次長は「山町ヴァレーの誕生で町の雰囲気が変わった。人通りも徐々に増え、市のKPI(重要目標達成指標)も前倒しで達成できました。山町ヴァレーは、地域のパイロット的な事業だと思う。古い町並み全体を活かすために、他に活用できる空き家がないか、末広開発さんと一緒に、1軒1軒回っています」と、さらなる今後の展開に期待を寄せる。



左から末広開発 菅野社長、高岡市 山村次長

さらに菅野氏は、「高岡には、古民家の活用に前向きな若い世代の人が多く、古民家の再生は小さな物件でも相応のコストがかかる。そういった資金面だけでなく、若い人のチャレンジをしっかりと前向きにサポートしていきたい」と続ける。

北陸銀行高岡支店の長谷川浩市支店長は、「地方創生は当行としても最重要課題。末広開発および高岡市と連携した事業に最大限努力したい。また、空き家対策や創業支援にも、積極的に関与していきたい」と力を込める。

町衆文化を想起させる3者の強いつながりが、山町筋のみならず、周辺地域も含めた活性化を創出する。